

冬の終わりを感じさせる日だまりでさえずっているのは…

「ホオジロ」です！

体色も大きさも「スズメ」に似ているのですが、尾はこちらの方が随分長いです。

昔の人は小鳥の声をさまざまに「聞きなし」てきました。

「聞きなし」とは、主に鳥のさえずりを人間の言葉やフレーズに当てはめて憶えやすくしたもので、例えば「ウグイス」の「法華経」や「ホトトギス」の「特許許可局」などをご存じの方も多いのではないのでしょうか。

そしてこの「ホオジロ」の聞きなしは…

「一筆啓上仕り候」（いっぴつけいじょうつかまつりそうろう）、江戸時代の方のセンスは、まったく恐るべし、ですね。

さて、この「ホオジロ」、結構ポピュラーな種のように、日本の国土の6割以上の地で繁殖しているとも言われています。

また、愛情の深い種で、一度つがいになると死別するまでずっと添い遂げることが多いそうです。もちろん「一夫一婦」で。

でも…

抱卵は雌（妻）に任せっきりですし、抱卵中の雌にエサを運ぶこともないようです。

「やっぱりな…」と思われる方もおられるかも知れませんが、ヒナが誕生すれば夫婦で共同して給餌を行いますし、外敵が巣に近づくとヒナを守るために擬傷（怪我をしたふり）をして注意を引きつける行動も、夫婦ともに観察されているのです。

■写真①： ホオジロ（雄）

- ◆蕾（つぼみ）の膨らんできた「サクラ」の木にとまっています。
- ◆名前の通り、頬（ほお）の部分の羽毛は白いですね。

■写真②： ホオジロ（雄）

- ◆正面から見ると、戦国武将か歌舞伎役者のような「顔」に見えませんか？

■写真③・④： ホオジロ

- ◆③：雄、④：雌（雄に比べて羽毛の色が淡いです）

■写真⑤： ホオジロ（雄）

- ◆昨春、金剛山頂で撮影したものです。青空に向かってさえずっていますね。









